

## 1. 研究目的

大学に入学したり企業に就職したりする際に一人暮らしを始めるケースが多い。しかし、数年間の一人暮らしをするのに、あまり広い部屋を借りる必要はなくむしろ狭い部屋を借りる人のほうが多いが、これには、広い家に住みたいが経済的な面で葛藤し妥協してしまう、という理由もあると考えた。

そして、狭い部屋で暮らしていく中でベッドはかなりのスペースを占めてしまい、他の家具を置くことや友人等を家に招いた際に不便であると考えた。

そこで、一人暮らしをする際に限られたスペースで利用できる家具を提案する。

## 2. 調査と分析

現在一人暮らしで最も多いのは「1K」である。20代の一人暮らしの50%以上は1Kに住んでいる。1Kとは一つの居室とその居室と仕切られたキッチンという構成からなる、間取りのことである。一人暮らしの面積の平均は27.4m<sup>2</sup>でキッチン+7~8畳であり、これは決して広いとはいえない。さらに、一人暮らしの平均家賃は約6万5千円で全体の約60%は平均家賃5~6万円台の部屋に住んでいて、やはり安さを優先して求めている。

また、一人暮らしのベッドの調査を行って、ベッドは場所をとるので小さいサイズにしてしまう、中には、折り畳みベッドやロフトベッドなどを使用している。確かに空間の有効利用ができるが、同じ目線でのコミュニケーションを数人でとることは難しく、友人などが遊びや泊りに来た際にベッドの上や床に座って話す形になってしまう。

## 3. コンセプトの立案

[一人暮らしの空間の中で充実した家具]

ベッドを基本形とした、部品の組み替えによって限られた空間の中で

- (1) 狭い部屋であってもしっかりと寝ることが可能。
- (2) 突然の多人数の来客時にも対応が可能。
- (3) 違和感なくインテリアとして有効に収納できる。

## 4. デザイン展開

組み合わせによって、ベッド以外の機能を持った家具を提案した。

- (1) 寝具としての使用

ベッドとしての役割を果たすために大人一人が十分に寝ることができるセミダブルサイズの大きさ

にした。(図-1)このベッドは9個の椅子とテーブルでできていて、三つ折りができるマットレスを採用した。また、この際、椅子が離れないように、留め具を入れられる場所がある。

- (2) テーブル・椅子としての使用

いつもはベッドとして使うが、いざというときは、テーブルと椅子として使用することができる。(図-3)これによって、同じ目線でのコミュニケーションが可能である。また、テーブルの下には折り畳んだマットレスを収納することができる。

- (3) 棚としての利用

テーブルと椅子として使う際に余った椅子を積み重ねることにより、棚として使用することができる。(図-4) この収納もずっと使うのではなく、一時的に枕や布団などを置いて使うこともできる。また、この時、スタッキングできるようにした。

## 5. 完成図



図-1 ベッド

図-2 マットレス収納



図-3 テーブルと椅子

図-4 収納棚

## 6. 結論

実際に検証を行い、下記のような結果になった。

- ・テーブルの天板の強度に問題があり、人が乗ると弛んでしまった。なので、天板の裏に板を相欠き構造で接着し補強することで解決した。
- ・椅子は軽く運びやすく多くて、テーブルも大きいので多人数には対応できている。
- ・確かに広々寝ることができるが、大きすぎる。
- ・部屋が狭いので組み替えるのが大変であった。

改善すべき問題点は、ベッドの大きさの再検討、テーブルの高さと形、そして、狭い部屋の中でより簡単に組み替えを行えるようにする、ということがあげられる。

## 文献

20代社会人シングル男女の一人暮らしデータ  
<http://suumo.jp/edit/chintai/survey/091014/>